



第26回

住まい備忘録

日本建築家協会 沖縄支部会員

大仲 英彦 ㈱スタッフオズ

ヒンプンの知恵を知る

沖縄の古民家を見て歩く時、誰しも敷地の入り口にデンと構えるヒンプン

ンと出会うと思いますが、このヒンプン実に絶妙な大きさを持ってこれ又絶妙な位置に建てられています。外から中の様子を覗き見る事は出来ませんが、入る事を隔絶している訳でも無く見事に曖昧に空間（道路と敷地）を区別し繋げています。さて私のテーマは「中間領域」です。

前述のヒンプンの役割は、「道路」と言う公の領域と「敷地」であるプライベートな領域の境目にあつて、曖昧な中しっかりと二つの異なる領域を分け繋ぐという事で、まさに中間の領域と言う訳です。

領域と言っても、その内容は様々です。例えば敷地と建物、建物の外と内、建物内部の動線（廊下とか）と各部屋等々、又人と動物といっ

た区分もあり得ます。

住宅を設計するという事は、この領域をデザインすると言う事かも知れません。

ダイニングキッチン、リビングダイニング、と言った聞きなれた用語にも表れています。昔前までは狭小な集合住宅事情から使われていたのが、今やクッキング、ダイニングを皆で楽しむスペースに進化しています。中間領域にする事で新たな楽しみ方が増えた代表的な例でしょう。

その他にも、内部に外部空間を取り込んで中間



外の中間領域

領域を作り出すとか、和室の開口部を大胆に開き

段差のない広縁の中間領域で庭と繋ぐ等・・・アイデアは様々です。

これまで大小様々な中間領域をデザインして来たつもりですが、これからは新たな中間領域の創作を続けたいと思っています。

最後に、個としての住宅から少し視野を広げて街づくりを考えた時、沖縄古来のヒンプンのような中間領域が多くデザインされパブリックと個を曖昧に「分け繋げる」事で、人と人とのコミュニケーションを促す本当の街作りに寄与して欲しいと思います。

内の中間領域

中間の領域をデザインする